

食育の推進に関する施策の進捗状況

(平成 3 0 年度実績及び課題等)

I 富山の「食」に着目した食育の推進

1 食育県民運動の展開

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
①富山型食生活モデルメニューの確立・普及	インターネット等によるメニューの普及PR	インターネット等によるメニューの普及PR	インターネット等によるメニューの普及PR

【取組実績】

- 旬の地場産食材や伝統的な食文化を活かした栄養バランスの良い「富山型食生活」や希薄になりつつある郷土料理等の食文化の伝承を図るため、食育リーダー等による普及のほか、「越中とやま食の王国フェスタ 2018～秋の陣～」で、多くの県民への普及を図った。

○イベントによる富山型食生活の普及・啓発



【課題及び対応】

- 引き続き、家族参加の料理教室の開催、食育リーダーによる講習会の開催のほか、四季折々の地場産食材を使った栄養バランスの良い「富山型食生活」の普及・PR活動を展開する。

(「越中食の王国フェスタ 2018～秋の陣～」)

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
②とやま食育推進フォーラムの開催	1回	1回	1回

【取組実績】

- 県民を対象に食育活動を通じ、健全な食生活への理解を深めていただくため、「とやま食育推進フォーラム」を開催し、約300名が参加した。

日時：平成30年5月26日（土） 13:30～15:30

場所：サンシップとやま

講演：「健康寿命を延ばそう！」～そのための食べ方・休み方・動き方～

元中京大学スポーツ科学部教授 湯浅 景元 氏



○主催者あいさつ



○講演（湯浅 景元 氏）

【課題及び対応】

- 食育の推進・実践に関する普及啓発を図るため、食育推進フォーラムを引き続き開催する。

	H29実績	H30実績	R1計画
③県食育推進計画の普及・啓発	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組等)	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組等)	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組等)

【取組実績】

- ・ 県政番組の「こんにちは富山県です」など、マスメディアを活用した普及・啓発を実施し、幅広い県民運動の展開を図った。
- ・ 県内各地域の食育関係団体の「健康メニュー」や「地産地消メニュー」、「とやまの家庭料理」など、地域で実践されているメニューについて、ホームページに掲載したほか、各種研修会やイベント等で普及啓発を図った。



【課題及び対応】

- ・ 引き続き、各種団体等が開催する会議・研修会、イベント等により食育の普及・啓発に努めるとともに、県政番組「こんにちは富山県です」での情報提供などマスメディアを活用した幅広い県民運動の展開を目指す。

	H29実績	H30実績	R1計画
④食生活改善チェックシートの作成・活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用

【取組実績】

- ・ 食事バランスガイドを活用した食事内容の点検や食生活のポイントを確認できる食生活改善チェックシートを活用、食育リーダー等による普及、「越中とやま食の王国フェスタ 2018～秋の陣～」等のイベントにより食育の実践の普及に努めた。



【課題及び対応】

- ・ 対象者に応じたチェックシートを活用し、地域の講座やイベント等で普及啓発に努める。

		H29実績	H30実績	R1計画
⑤食育リーダーの養成・派遣	登録者数	53人・団体	47人・団体	48人・団体
	派遣回数	75回	86回	70回

【取組実績】

- ・ 食育の推進を図るため、管理栄養士、医師、調理師、食生活改善推進員、農業生産者など「食」に関する知識を持つ方々を「富山県食育リーダー」として養成・登録し、関係機関、団体等が主催する講演、研修会等に派遣した（富山県栄養士会へ委託）。



○食育リーダーによる食に関する研修会



【課題及び対応】

- ・ 様々な分野で活躍する食育リーダーのさらなる養成・登録を推進するとともに、食育リーダーの活用の周知を図り、効果的な派遣を行う。

		H29 実績	H30 実績	R1 計画
⑥富山型食生活普及に向けた食育推進イベントの開催	開催回数	2回	2回	2回

【取組実績】

- ・ とやまグランドプラザで野菜摂取の促進と生活習慣病予防を目的として子どもから高齢者までを対象に食育推進イベントを開催し、食事診断・栄養指導、健全な食生活の啓発等を行った。
- ・ 県民一人ひとりが食育に関心を持ち、食育の実践につなげることを目的に「越中とやま食の王国フェスタ 2018 秋の陣」イベントでの栄養バランスのとれた富山型食生活等の普及・啓発や栄養改善指導を行った。



富山型食生活の普及・啓発（食の王国フェスタ）

【課題及び対応】

- ・ 富山型食生活の普及には、家庭や職場、地域など様々な場所において、取組みを推進する必要がある。

		H29 実績	H30 実績	R1 計画
⑦地域食育推進体制強化事業の推進				
ア) 食育推進連絡会の開催		6回	3回	5回程度
イ) 食育指導関連教材の整備・貸与回数		99回 (教材数 230)	90回 (教材数 311)	100回程度
ウ) 食育に関する出前イベントの開催	実施回数	3回	5回	5回
	参加人数	約275人	298人	300人程度

【取組実績】

- ・ 各厚生センターが中心となり、食にかかわる関係機関、団体等と連携し食育に関する共通理解を深めるなど、地域における食育推進体制の強化充実を図った。

具体的な事業内容

- ア) 食育推進連絡会の開催
 - イ) 食育指導関連教材（フードモデル、紙芝居、パネル等）の整備と貸与
 - ウ) 学校、保育所、公民館等での食育に関する出前イベントの開催
- 食育推進連絡会の開催 ○専門学校での出前イベント



【課題及び対応】

- ・ 食育推進連絡会を中心に地域での連携をさらに推進するとともに、スーパーマーケット、飲食店、事業所等と連携した出前イベントの開催や、食育指導関連教材の紹介により、食育推進体制を強化する。

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
「栄養の日・栄養週間」の普及	—	普及啓発の推進	普及啓発の推進

【取組実績】

- ・ 「栄養の日（8月4日）」、「栄養週間（8月1日～7日）」を中心に、エビデンスに基づいた正しい情報の発信により、適切な食生活の実現することを目的に、県民に対して普及啓発を行った。
- ・ 平成30年度は、栄養の日・栄養週間の周知、県ウォーキングイベントにおける栄養相談の実施、低栄養予防のための啓発リーフレットの作成（若年女性向け、高齢者向け）を実施した。
（富山県栄養士会に委託）

【課題及び対応】

- ・ 「栄養の日・栄養週間」を契機に、自身の食生活について振り返るきっかけを提供し、望ましい食習慣の確立を推進する。また、令和元年度は本県で特に課題となっているメタボリックシンドロームの予防の普及啓発に取り組む。



○県ウォーキングイベントにおける栄養相談の風景



○低栄養予防リーフレット

2 地産地消の推進や生産者と消費者の交流

	H29実績	H30実績	R1計画
①「越中とやま食の王国フェスタ」の開催	2回	2回	2回

【取組実績】

- ・ 『#fufufu!』と食べたい、とやま極上の味』をテーマに、平成30年10月27日（土）・28日（日）に「越中とやま食の王国フェスタ2018～秋の陣～」を、平成31年2月2日（土）に「越中とやま食の王国フェスタ2019～冬の陣～」を開催した。
- ・ 「秋の陣」では、富山テクノホール（富山市）を会場に、富山の海・野・山の幸を一堂に集め、旬の県内野菜をマルシェスタイルで販売する「王国旬菜市场」、「とやま食の匠」による創作料理等の実演、オリジナル越中丼の販売、富山の食文化や郷土料理を体験する「富山食楽工房」、富山米新品種「富富富」の販売など多彩な催しを繰り広げ、訪れた約30,000人に対し、富山の食の魅力をアピールした。
- ・ 「冬の陣」では、ホテルグランミラージュ（魚津市）において、「越中料理と地酒を楽しむ会」を開催し、参加者243名に県産食材を使った越中料理と県内の酒蔵による地酒を堪能していただいた。

○「越中とやま食の王国フェスタ」



（秋の陣 富山テクノホール）



（冬の陣 「越中料理と地酒を楽しむ会」の料理）

【課題及び対応】

- ・ 引き続き、「越中とやま食の王国フェスタ」の「秋の陣」及び「冬の陣」を開催し、「食のとやまブランド」の県内外への発信を図る。
「秋の陣」：収穫の恵みに感謝しつつ、生産活動等の成果や食の魅力を県内外に発信
「冬の陣」：「越中料理」等の魅力を県内外に発信

	H29実績	H30実績	R1計画
②直売所及びインショップにおける農産物販売額	販売額 3,656百万円	販売額 3,667百万円	販売額 4,500百万円以上 (R3年目標)

【取組実績】

- ・ 消費者が生産者・産地の「顔が見える」県産品に触れることができる機会をより多く確保するため、直売所やインショップでの農産物販売へのPR等の支援を行った。
- ・ これらの結果、県内の直売所及びインショップの店舗数及び販売金額は、近年、着実に増加している。

	平成 14 年度		平成 21 年度		平成 30 年度
店舗数	75 店舗	→	165 店舗	→	199 店舗
販売金額	387 百万円	→	1,939 百万円	→	3,667 百万円



【課題及び対応】

- ・ 現在、直売所及びインショップにおいて販売されている品目、量、時期は限られており、消費者ニーズに必ずしも十分応えきれていないことから、地場農産物の生産拡大支援など、生産者、流通関係者、小売業者等が一体となった取り組みを推進する。

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
③女性起業組織等への活動支援	女性起業件数 183件 (38件)	女性起業件数 185件 (39件)	女性起業件数 190件 (41件)

※括弧内は販売額 1,000 万円以上起業件数

【取組実績】

- ・ 地場産品等の生産や加工に意欲的に取り組む農村女性起業組織のリーダーや起業化を志す農村女性を対象に、活動に必要なマーケティングや経営管理、加工技術などのスキルアップ講座を開催した。
- ・ また、新たな商品開発やサービス、販路開拓などの取組みを支援する農村女性チャレンジ事業や、起業活動の拡大に必要な機器や加工施設の整備等を支援する農村女性起業拡大支援事業、起業から企業への発展を目指す組織に対しては、商品構成の拡大、販売力の強化等を総合的に支援する農村女性先進モデル企業育成事業を実施した。
- ・ さらに、講座や事業を活用して開発された商品等、技術や販売方法等の課題解決に向け専門家を派遣するなどのフォローアップや起業家同士のネットワークを促進するための商品 PR イベント等を実施し、その結果、農村女性の起業活動の取組みは、着実に拡大している。

○「越中とやま食の王国フェスタ 2018～秋の陣～」
女性起業の開発商品の利用等について PR



(料理研究家による加工品の展示と利用紹介)

○「畑パーティとやま」による消費者イベント
農村女性起業ネットワークによる PR 活動



(なやマルシェ)

- ・ 「越中とやま食の王国フェスタ 2018～秋の陣～」では、農村女性が開発した新商品を使った展示や調理法を紹介した。また、農村女性起業ネットワーク活動として、事業者の施設等を活用した消費者イベント「なやマルシェ」を開催するなど、SNS等も利用し、女性の取組みのPRを行った。
- ・ 各農林振興センターにおいては、女性起業組織の商品開発や経営、食品表示等の指導、直売所・インショップの品揃えの充実、学校給食への食材供給等の地産地消活動などを重点的に支援した。

【課題及び対応】

- ・ 地域農業を活性化するため、女性のパワーを活かした直売や農産加工等の意欲的な起業活動の拡大がますます重要になってきているなか、組織構成員の高齢化が進んでおり、次世代への円滑な経営継承を促進する必要がある。
- ・ このため、引き続き、女性起業組織等の育成を図るため、実践的な商品開発能力を養う「農村女性スキルアップ講座」の開催に加え、商品開発などの事業規模拡大や商品数と製造量の拡大など企業への発展をめざした取組み、さらには、子育て期の女性等の加入・定着のための働きやすい職場環境づくりなど起業活動の発展段階に応じて、総合的に支援する必要がある。
- ・ また、農村女性起業の商品改良等に関する課題解決に向けたフォローアップとして、商品PRイベントの開催により起業者同士のネットワーク「畑パーティとやま」の活動を促進する。

	H29実績	H30実績	R1計画
④富山県ふるさと認証食品（Eマーク食品）の認証	申請に基づき審査 ・年2回 ・新規認証14	申請に基づき審査 ・年2回 ・新規認証6	申請に基づき審査 ・年2回募集

【取組実績】

- ・ 年2回、新規募集を行い審査及び認証している。
- ・ 各種イベントやホームページ等でPRした。

＜Eマーク商品の認証要件＞



- ・ 主要原材料は富山県産 100%であること
- ・ 製造工場等が富山県内にあること
- ・ 食品としての品質が優れていること

○H31.3月現在の認証数
35品目 333商品

【課題及び対応】

- ・ 地産地消の推進や6次産業化などの新たな取組みにより、商品開発が活性化する中で新規に募集を図っていく。

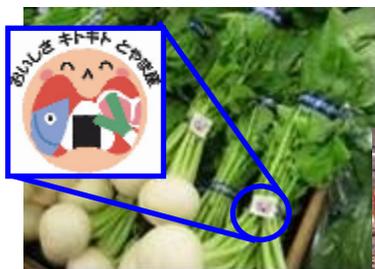
	H29実績	H30実績	R1計画	
⑤地産地消県民運動の推進				
ア)「とやまの旬」応援団の募集・登録	個人	3,680名	4,179名	5,000名 (R3目標)
	企業・団体	1,241団体	1,252団体	1,500団体 (R3目標)
イ) 県産品購入ポイント制度	65日間	65日間	65日間	

【取組実績】

- ・ 積極的に地産地消に取り組む企業や団体、個人を応援団として登録し、県民ぐるみの地産地消運動を展開した。
- ・ 県民に県産品を優先的に選択してもらう動機付けとなるよう「県産品購入ポイント制度」を実施したところ、25,091件（H28：17,148件、H29：20,815件）の応募があった。
- ・ 子どもと地域住民が一緒に行う農林漁業体験など、地元食材の魅力の再発見につなげる活動を支援した。

実施概要：平成 30 年 9 月 8 日～ 11 月 11 日

食品スーパーマーケット・百貨店、青果店、加工食品製造直売所など（362 店舗）
米・青果・鮮魚・精肉・加工食品などに貼り付けてある県産を示す「地産地消
シール」や「プライ斯拉ベル」を 10 枚集めて応募



○県産品に貼られる
地産地消シール



○サービスカウンターや売場での
応募用紙・応募箱の設置

【課題及び対応】

- 引き続き、地産地消「とやまの旬」応援団の登録を促進するとともに、応援団が提案する自主的な地産地消活動に対して支援する。
- 「県産品購入ポイント制度」については、県産品へのシール貼付やポップの充実、食料品スーパーや青果店に加え農産物直売所、農家レストラン、美味しい富山米の店など対象店舗の拡充に努めており、消費者へのさらなる浸透に努める。
- 地域における食育を推進するため、引き続き農林漁業体験などの活動を支援する。

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
⑥子どもたちに対する魚食の普及			
・高校、短大生向けのセミナー開催	5 回	7 回	7 回
・小学生向け副読本「ふるさと富山湾」配布	10,000 部	9,100 部	9,100 部
・学校給食食材提供（県産魚学校給食普及事業）	30.2 万食	28.7 万食	31 万食

【取組実績】

- 県内の高校生・短大生（滑川高校、富山短大、伏木高校、新湊高校、富山商業高校、高岡向陵高校 計 7 回 190 名）を対象に魚食の大切さを教える「さかなの栄養に関する知識の習得」及び「おさかなの捌き方の実習」のセミナーを開催した。
- 富山湾で獲れる魚や水産業の仕組み及び漁場環境を保つための取組みについて理解を深めてもらうことを目的に「ふるさと富山湾～ふしぎの海のおさかな読本～」を 9,100 部作成し、社会科の副読本として活用してもらうため、県内小学校の 5 年生及び担当教諭に配布した。
- 富山湾のおいしい魚を知ってもらい、富山湾産魚の消費拡大を図るため、富山県学校給食会等と連携し、県下小学校、中学校等にフクラギの切身等を給食食材として提供した。

【課題及び対応】

- 県産魚を知り県産魚に親んでもらうため、引き続きセミナーの開催や副読本の配布、学校給食への食材提供に取り組む。

3 魅力ある食文化の継承・創造

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
①新たな「とやま名物」商品開発	6次産業化とやまの 魅力発信事業 新規5件 継続3件	6次産業化とやまの 魅力発信事業 新規6件	6次産業化とやまの 魅力発信事業 6件程度
	「富のおもちかえり」 商品開発 6商品	「富のおもちかえり」 商品開発 3商品	「富のおもちかえり」 商品開発 5商品

【取組実績】

- ・ 農林漁業者と中小企業者が連携して行う新商品・新サービスの開発や販路開拓を支援し、平成29年度は、地元産の農産物を使用した特産品など9件の商品開発・販路開拓の取組みが行われた。
- ・ 農林漁業者が自ら行う新商品・新サービスの開発や販路開拓(6次産業化)を行う県単独の支援制度により、6件の新規取組を支援した。

○H30年開発商品



手作りジャム・山ぶどうジュース



くだものキャンディ



干しちゃいました

- ・ 富山を訪れた方が思わず手にとり、持ち帰りたくなるような県産農林水産品を使った魅力あるお土産品「富のおもちかえり」16商品について、県内外での知名度の向上を目指しPR販売キャンペーンを実施した。また、平成30年度に常温の3商品を新たに追加した。

○富のおもちかえり商品



(H30年度追加商品)



「富のおもちかえり」商品

押し寿司、ます寿し、オイル漬
かまぼこ、ローストビーフ
黒とろろ昆布ふりかけ、
魚介や果実のジャーキー、スイーツ

【課題及び対応】

- ・ 6次産業化商品については、とやま6次産業化セミナーや6次産業化プランナーの派遣などにより、商品の魅力発信を支援する。
- ・ 「富のおもちかえり」商品については、県内外でのPR活動を展開するとともに、日持ちしやすい常温商品のラインナップを拡充する。

	H29実績	H30実績	R1計画
②「とやまの食」を普及する人材「とやま食の匠」の認定	推薦に基づき選考 10個人・団体	推薦に基づき選考 9個人・団体	推薦に基づき選考 5個人・団体

【取組実績】

- ・ 食のとやまブランドを支える人材を育成するとともに、とやまの食の魅力を県内外に発信するため、「とやま食の匠」(特産の匠・伝承の匠・創作の匠の3部門)として新たに9個人・団体を認定した。

○H31年3月現在の認定数

特産の匠：	72個人・団体
伝承の匠：	53個人・団体
創作の匠：	42個人
計	167個人・団体

- ・ 学校、企業、団体等からの依頼に応じて、「とやま食の匠」を講師として派遣した（H30年度の派遣実績 計42回）。

【課題及び対応】

- ・ 「とやま食の匠」の認定を進めるとともに、学校や企業、地域住民等への「とやま食の匠」の派遣を促進するなど、制度の充実を図る。
- ・ 「越中とやま食の王国ホームページ」等を活用し、制度の普及啓発を図る。

	H29実績	H30実績	R1計画
③越中料理のブランド化の推進	「越中料理」のPR	「越中料理」のPR	「越中料理」のPR

【取組実績】

- ・ 平成31年2月2日にホテルグランミラージュ（魚津市）において、「越中とやま食の王国フェスタ2019～冬の陣～越中料理と地酒を楽しむ会」を開催し、参加した243名に、県産食材を使った越中料理と県内の酒蔵による地酒を堪能してもらった。

【課題及び対応】

- ・ 「越中とやま食の王国フェスタ」や「越中とやま食の王国」ホームページ等で、越中料理の普及・PRを図る。

	H29実績	H30実績	R1計画	
④三世代ふれあいクッキングセミナーの開催	開催回数	72回	70回	
	参加人数	2,697人	2,621人	
	〔 内訳 子供親祖父母〕	981人	958人	900人
		615人	505人	400人
668人		740人	700人	

【取組実績】

- ・ 食を通じたふれあいの輪を地域に広げ三世代の交流を推進する場を提供するとともに、日頃の食生活を振り返るきっかけとなる「三世代ふれあいクッキングセミナー」を開催したところ、2,621人の参加があり、各世代を通じて参加者の好評を得た(富山県食生活改善推進連絡協議会へ委託)。

○三世代ふれあいクッキングセミナー（富山県食生活改善推進連絡協議会）



【課題及び対応】

- 三世代のふれあいを通じて食べものを大切にする心などを伝えるとともに、各世代が健康づくりのための食事について学び、幼い頃から望ましい生活習慣を身につけられるよう、セミナーの一層の推進を図る。

		H29 実績	H30 実績	R1 計画
⑤富山型食生活普及事業(いきいきとやま食育クッキング)				
ア) 市町村中央研修会	開催回数(15 市町村)	15 回	15 回	—
	参加人数(推進員)	490 人	505 人	—
イ) 地域伝達普及講習会	開催回数	32 回	31 回	元気とやま食生活改善クッキングの実施
	参加人数	1,381 人	928 人	

【取組実績】

- 市町村の推進員を対象に中央研修会を実施し、この中で郷土料理等の調理実習を行うなど地域で普及活動を行うときのポイントを確認した。
- 富山型食生活を確立・普及するため、地域の一般住民を対象に、郷土料理や旬の地場産食材を用い、地域の食文化を生かした栄養バランスのよい料理を普及する富山型食生活普及事業「いきいきとやま食育クッキング」を実施した（富山県食生活改善推進連絡協議会へ委託）。

【課題及び対応】

- 引き続き主食・主菜・副菜のそろった栄養バランスのよい食事の普及啓発に努める。

Ⅱ ライフステージに応じた健康増進につながる食育の推進

1 子どもに対する食育の推進

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
①家庭教育かわら版の刊行	各号に掲載 5万部配布	各号に掲載 5万部配布	掲載 5万部配布

【取組実績】

- ・ 家庭教育かわら版は、幼稚園、保育所、認定こども園の年少児から小学校 1・2 年の子どもの保護者に配布(約 5 万部)している。

○2018 夏号—五感で学び、楽しむふるさととやま—

○2018 秋冬号—整えよう おやすみリズム—



【課題及び対応】

- ・ 食育の実践に向け、家庭教育かわら版を活用した食に関する関心の喚起と正しい知識の普及を引き続き実施する。

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
②毎日しっかり朝ごはん事業の推進 〔 県内全小・中・高校生及び その保護者を対象 〕	朝食摂取への意識 の高揚と実践化の 普及啓発を図っ た。	朝食摂取と栄養バ ランスの意識高揚 と実践化の普及啓 発を図った。	朝食摂取と栄養バ ランスへのさらな る意識高揚と実践 化を進める。

【取組実績】

- ・ 平成 30 年度は、朝食の役割や栄養バランスのとれた朝食摂取の習慣を身に付けることの大切さを啓発するため、「毎日しっかり朝ごはん！」のキャッチフレーズと、栄養バランスのよい朝食内容やご飯を食べている「きときと君」(元気とやまスコット) のイラストを印刷した食育ランチマットを作成して、県内の小・特別支援学校の全小学 1 年生に配布し、食に関する指導の推進に努めた。年度末には、「学校給食とやまの日」や「全国学校給食週間」等を意識できるように、食育啓発カレンダー (H31. 4~R2. 3) を県内全小・中・高・特別支援学校に配布した。また、毎月 19 日の食育の日などを通じ、学校・家庭・地域が連携を図り、食育に関する取組を推進した。

【課題及び対応】

- ・ 栄養バランスのとれた朝食を摂取する児童生徒が増加するよう学校に啓発するなど、事業内容を工夫し、継続実施する。

○食育ランチマットを用いた食育啓発運動（小学校）



○「カレンダーの上部（朝食摂取と学力調査の関係）」食育啓発教材



	H29 実績	H30 実績	R1 計画
③学校給食における地場産品の活用促進 （市町村推進組織の運営、地場産野菜・果実を使用した特別給食の実施、地場産食材の活用促進等に対する支援）	活用実績 498 トン （115 品目） 特別給食※ 269 校	活用実績 461 トン （115 品目） 特別給食※ 266 校	活用計画(R3) 700 トン以上 （115 品目） 特別給食※ 266 校

※特別給食とは、学校給食での県産食材の活用を促進するため、従来の市町村産中心の県産食材の活用に加え、産地間（市町村間）の情報を共有化しネットワークを構築するとともに、県産食材を使用した県産給食を実施し、学校給食での県産食材のさらなる活用拡大を目指した取組み。

【取組実績】

- ・ 「地場産野菜、果実等を活用した特別給食」の充実・強化や生産者等と児童、生徒との交流活動を進め、地場産食材の活用促進や地元の食材に対する知識、理解を深めた。
- ・ また、米の多様な利用について理解を深めてもらうため、学校給食に対する米粉パンの供給に支援した。県下の全小・中学校では、県産コシヒカリによる米飯給食を週平均3.7回実施した。

○「県産食材活用拡大プロジェクト事業」を活用した協議会運営・特別給食・生産者との交流活動



【課題及び対応】

- ・ 「地場産野菜、果実等を活用した特別給食」の実施などに引き続き取り組む。

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
⑤栄養教諭を中核とした「望ましい食習慣づくり」の推進	栄養教諭配置数 32人	栄養教諭配置数 37人	栄養教諭配置数 42人

【取組実績】

- 平成 30 年度は、栄養教諭が配置されている県内の各学校において、教科や特別活動における食に関する指導の充実や、地域・家庭とが連携し、地産地消の啓発や食育の推進を行った。
- 栄養教諭の配置校では、各校の児童生徒の実態や発達の段階に合わせて、計画的・継続的に食に関する指導を実施している。栄養教諭による保護者向けの講演や授業参観での親子学習、食育だよりの発行、親子料理教室の開催等により、食育の推進について P T A や地域への啓発を図った。
- 食材を選ぶことの大切さや感謝の心を育むことができるよう、多くの学校で地場産の食材を使った調理の体験活動が行われた。



○栄養教諭による授業風景

○「とやまの学校給食レシピ集」を活用した資料と料理の展示

- 家庭での望ましい食習慣の確立を目指して平成 27 年度に作成し全児童生徒に配布した「とやまの学校給食レシピ集」を基に、栄養教諭が学習参観日に資料と料理の展示を行った。このレシピ集は、学校給食の献立の中から、不足しがちな栄養を補って児童生徒に人気のある献立や地場産物を取り入れた献立を掲載しており、ホームページからのダウンロードも可能である。
- 学校給食の栄養バランスのよさを伝え、不足しがちな食品を家庭でも取り入れてもらえるように、「豆まめじゃこごはん」「ごまみそあえ」「さつまいもサラダ」等を展示した。「ごまみそあえ」は県内産小松菜を使い、地場産物活用を PR した。



○栄養教諭による献立説明 ○学校給食レシピ集

○「学校給食とやまの日」の取組（高岡市）

- 「富山県食育推進月間」に合わせて 11 月中の一日または数日を「学校給食とやまの日」とし、地元の農作物や県内食材を積極的に使用した学校給食を実施している。
- 県内の各小中学校では、市町村、学校給食関係者が連携し、地域の食材を多く取り入れた、特色ある献立を工夫している。
- 高岡市の「学校給食とやまの日」には、黒部野菜のあったか汁、ふくらぎのゆず味噌かけ、お酢合い、国吉りんご等が提供された。市内の小学校では、日頃お世話になっている地域の方を招いて会食が行われ、児童会の給食委員が司会・運営し、児童が感謝の気持ちを伝えた。



○高岡市の献立



○会食の様子

○小学生向けの「農」と「食」を紹介する副読本の活用

- ・ 次の世代を担う子供たちが自然の恩恵や食に係わる人々の活動、さらに、ふるさとの農産物のよさを理解するとともに、日本人の伝統的な食文化を理解・継承していけるように、富山県の農業と食(食文化、郷土料理等)を紹介する小学生向けの副読本を活用して、授業を実施している。
- ・ 栄養教諭研修会、学校給食指導者研修会等で、副読本の紹介と活用の啓発を図っている。



○副読本を活用した授業

【課題及び対応】

- ・ 令和元年度は、栄養教諭 42 名が県内全市町村に配置（前年度より 5 名増）されており、家庭や地域と連携しながら、一層の食育推進に努める。
- ・ 平成 27 年度に作成した、本県の農業の特徴と食文化・郷土料理などを紹介する小学 4 学年向けの副読本「みんなで学ぼう！とやまの『農』と『食』」を活用し、食に関する指導の充実を図る。
- ・ 栄養教諭の配置校では、農林水産業や伝統料理など地域の食文化に対する児童・生徒の理解を深めるため、地域の食文化の特徴を活かした「食材の生産段階から望ましい食生活の実践」までの一貫した学習を地域の農林水産業者や食育関係者などと連携して推進する。

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
⑥とやま子育て応援団制度の推進	2,290 店舗	2,351 店舗	2,412 店舗

【取組実績】

- ・ 子育て家庭のふれあいやコミュニケーションを深める機会を提供する「とやま子育て応援団」を推進し、「家族そろっての食事」の普及・啓発を図った。
 （実施時期：主に、毎月の「とやまふれあいウィーク」（「とやま県民家庭の日」（毎月第 3 日曜日）から始まる 1 週間）の期間中）

【課題及び対応】

- ・ とやま子育て応援団のさらなる利用促進を図るため、PR を強化する。

2 若者世代に対する食育の推進

		H29 実績	H30 実績	R1 計画
①若者世代に対する食育講座と調理講習会の開催	開催回数	14回	7回	7回
	参加人数	318人	181人	175人

【取組実績】

- 朝食の欠食、外食やインスタント食品への依存、女性のダイエット志向など、特に子育て世代や若い世代を対象に郷土料理や行事食等の地域食文化の保護・継承や富山型食生活の実践を図るため、食育講座と調理講習会を開催。

○若者世代に対する食育講座、料理教室



伝統料理の探訪ツアー



調理体験



完成した料理

【課題及び対応】

- 中・高校生、大学生をはじめ若い会社員など若者世代に対して食育を普及・啓発するため、富山版食事バランスガイドや栄養成分表示を活用した講習会を開催するとともに、イベントに出向き指導相談等を行う。
- 若者が取り組む食育調理体験やセミナーなどの食育活動に支援を行う。

3 働き盛り世代・高齢者に対する食育の推進

	H29実績	H30実績	R1計画
①バランスアップ健康プロジェクトの実施	民間産業との連携	民間産業との連携	民間産業との連携

【取組実績】

- ・ 民間産業と連携したバランスアップ健康プロジェクト事業を実施し、社員食堂等と連携したメニュー改善の取組みや普及啓発等を行った。

【課題及び対応】

- ・ 民間事業所と連携し、メニュー改善に向けた取組みをさらに推進、拡大する。
- ・ 健康寿命延伸のため、地域や職域と連携した健康づくりの強化、県民一人ひとりに届く「健康づくり」の展開と気運の醸成、若い世代からの発症予防・重症化予防が重要であり、県民を取り巻く家庭や職場、地域、学校などが一体となって、総ぐるみで取り組む。

	H29実績	H30実績	R1計画
②「健康寿命日本一応援店」の登録	161店舗	206店舗	登録推進

【取組実績】

- ・ 野菜たっぷり、減塩、シニア向けのメニューを提供する飲食店等を「健康寿命日本一応援店」として登録し、県民への周知を図った。

【課題及び対応】

- ・ 県内飲食店等に「健康寿命日本一応援店」の登録を働きかけ、登録の拡大を図るとともに、県民への周知に努める。



○健康寿命日本一応援店ステッカー

	H29実績	H30実績	R1計画
「野菜をもう一皿！食べようキャンペーン」の実施（協力店舗数）	494店	623店	協力店拡大

【取組実績】

- ・ 野菜の日（8月31日）に合わせて、野菜を販売している小売店（スーパー、コンビニ、八百屋等）を対象に、家庭での野菜摂取を促進するためのキャンペーンを実施した。
- ・ 平成30年度は、野菜1日350gの目安を実感してもらい野菜摂取増加につなげるため、県が主催するウォーキングイベントの参加者に対して、県産野菜350gセットを配布し、ウォーキングイベント参加へのインセンティブとして相乗効果を図った。

【課題及び対応】

- ・ 引き続き、協力店を募集するとともに、PR資材を提供によって協力店による主体的な取組みを支援することで、県民の野菜摂取の意識の向上を図る。



○キャンペーン

Ⅲ 食の安全・安心や食の循環を意識した食育の推進

1 食の安全確保の推進

	H29実績	H30実績	R1計画
① 食品安全に関するイベントへの参加人数	2,739人	3,032人	3,600人

【取組実績】

- ・ 食品安全に関する情報をわかりやすく解説するとともに、県民との意見交換を行う食品安全フォーラム等を開催した。

「食品安全フォーラム in とやま ～正しく理解しよう！食品安全の用語や取組み～」
 (平成30年7月25日開催、富山県民共生センター サンフォルテ、参加者約150名)

- ・ 講演「食品安全ー最近の話題から」
 (講師：内閣府食品安全委員会 委員 堀口 逸子 氏)
- ・ パネルディスカッション
 「食品安全と自分たちの役割」
 コーディネーター 堀口 逸子 氏
 パネリスト 生産者、消費者代表等 4名



- ・ 県の取組みや食品安全に関する知識を県民に正しく理解してもらうため、多くの来場者が見込める「食の王国フェスタ」に食品安全に関するブースを出展した。

「食の王国フェスタ」に食品安全関連ブースの出展
 (平成30年10月27,28日開催、テクノホール、参加者約1,100名)

- ・ パネル展示
- ・ クイズコーナー
- ・ 啓発資料の設置、配布
- ・ アンケートの実施 ほか



- ・ 県内生産者の食品安全に対する取組み等を広く県民に周知するとともに、生産者の「意気込み」や「こだわり」を織り交ぜて消費者にアピールするためのイベントを開催した。

イベント「安全・安心『とやまの農産物』フェア」

(平成31年2月24日開催、ファボーレ、参加者約1,700名)

- ・ 県内生産者による「安全な農産物づくりのこだわり」紹介
- ・ 「こだわり農産物」を利用した調理実演、野菜の保存食講座
- ・ タレントによるトークショー (テーマ：こどもの食の安全)
- ・ パネル展示&クイズコーナー
- ・ 手洗いチェックや野菜の糖度検査の体験コーナー ほか



【課題及び対応】

- ・ 食品安全フォーラムの開催及びイベントへの食品安全関連ブースの出展等により、リスクコミュニケーションの強化を図る。

	H29実績	H30実績	R1計画
②とやま食の安全・安心情報ホームページの運営 (アクセス年間件数)	19,348件	17,702件	—

【取組実績】

- ・ 県内の食中毒発生や食品安全フォーラム等の開催内容など、適時的確な情報提供に努めるとともに、より見やすく分かりやすいホームページとするため、関係情報の整理等を行った。

【課題及び対応】

- ・ 適時的確な情報提供、内容の更新に努め、必要な情報がよりスムーズに得られるよう工夫するとともに、ホームページの認知度向上に努める。

	H29実績	H30実績	R1計画
③食品表示講習会の開催	4回	4回	4回

【取組実績】

- ・ 関係団体へのパンフレット等の配布やホームページで情報提供を行うとともに、業界団体、農産物直売所等を対象とした食品表示講習会（4回）の開催や食品表示ウォッチャー講習会（4回）等への講師派遣により、食品表示法の内容など、適正な食品表示の周知に努めた。



【課題及び対応】 食品表示講習会の様子

- ・ 食品表示に関し、関係団体に対し情報提供を行うとともに、講習会や研修会を通じて制度の周知に努める。

	H29実績	H30実績	R1計画
④食品表示ウォッチャー調査店舗数	1,044店舗	1,049店舗	1,320店舗
⑤食品表示ウォッチャーの食品表示実態調査等における適正な店舗の割合	97.2%	95.1%	100%

【取組実績】

- ・ 県内小売店における食品表示の実態を把握するため、消費者からなる「食品表示ウォッチャー」（30名を委嘱）を配置し、ウォッチャーに対する研修会を4回実施するとともに、日常の買い物の中で小売店の食品表示の実態を調査した。
- ・ また、不適正な表示が認められた店舗については、担当職員が立入調査を行い、適正な表示を指導した。



【課題及び対応】

- ・ 食品表示ウォッチャーによる調査を通じた監視体制の強化に努める。

食品表示ウォッチャー

2 食の循環や環境を意識した食育の推進

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
①食品ロス・食品廃棄物削減推進のための啓発イベント等の開催	1回	1回	3回

【取組実績】

- ・ イオンモール高岡で一般県民等を対象として、食品ロスをテーマとした外部講師によるトークイベントを行い、県民が食品ロスの削減について考える機会を創出し、意識啓発を行った。
(約70名が参加)

<p><開催日・参加人数等></p> <p>日時 10月13日(土) 10:30~12:00</p> <p>場所 イオンモール高岡</p> <p>講師 崎田裕子氏</p>		
---	--	---

【課題及び対応】

- ・ 食品ロス・食品廃棄物の削減を推進するため、引き続き、一般県民や食品関連事業者を対象とした啓発イベントやフォーラムを開催する。

	H29 実績	H30 実績	R1 計画
②子ども向け食品ロス等削減の普及啓発	—	啓発資材の制作	資材を活用した普及啓発

【取組実績】

- ・ 子どもの頃から「もったいない」精神や食べ物を大切にする心を育成するとともに、子どもから親への普及を図り、親子で一緒に食品ロス削減に取り組むきっかけを創出するため、未就学児を対象に、楽しみながら食品ロスを学べる紙芝居や動画を各400部制作し、県内の保育所、幼稚園、認定保育園、公立図書館など385カ所に配布した。同啓発資材は、「とやま食ロスゼロ作戦」のホームページで公開している。

○子ども向け啓発資材の制作・配布

<紙芝居>

すっきりんごちゃんとかわずざらい王子の体験を通じて、食べ物に感謝して食べ残しを出さないことを学ぶ物語



<動画>

すっきりんごちゃんの不思議な体験を通じてスーパー等で陳列棚の手前から取ることの大切さを学ぶとともに、賞味期限と消費期限の違いについて学び、冷蔵庫等の在庫確認を行うことの大切さを学ぶ物語



【課題及び対応】

- ・ イベント等において制作した啓発資材を活用することで、子ども向けの食品ロス削減の普及啓発に努める。

	H29実績	H30実績	R1計画
③食品ロス削減のための商慣習見直しに関する普及啓発	—	啓発資料の制作	資料を活用した普及啓発

【取組実績】

- 食品流通過程における納品期限等の緩和を促進するため、納品期限の緩和や過剰在庫の解消等に取組む事業者の優良事例等をまとめた事例集を作成し、事業者や消費者に配布することで県民の理解促進を図った。

○商慣習見直し事例集の制作

<内容>

- ・商慣習の紹介
- ・富山県が実施した商慣習見直しに関する検証事業のアンケート結果紹介
- ・商慣習の見直しに向けた取組指針
- ・商慣習の見直しに向けた県内外の取組事例紹介

【課題及び対応】

- 制作した事例集を活用し、消費者の食品ロス削減のための商慣習の見直しに対する理解を深め、組み事業者の拡大を図り、食品ロス削減を推進する。

	H29実績	H30実績	R1計画
④「食べきり3015運動」協力店及び「食べきりサイズメニュー」提供店の募集・登録			
「食べきり3015運動」協力店	—	68店	100店
「食べきりサイズメニュー」提供店	—	59店	100店

【取組実績】

<「食べきり3015運動」協力店>

3015運動をPRする三角柱等を制作し宴会の席等に配置してもらうとともに、幹事向けチラシにより3015運動の協力依頼をってもらうことで、宴会参加者の3015運動の実践を促進した。

- ・制作物：三角柱POP、ポスター、チラシ
- ・配布先：県内ホテル・旅館、居酒屋、仕出し屋等



<「食べきりサイズメニュー」導入店>

飲食店での食べきを推進するため、小盛りメニューの導入を飲食店に働きかけ、全県的に小盛りメニューの導入促進を図った。

- ・制作物：テント型POP、ポスター、チラシ
- ・配布先：レストラン等県内飲食店

【課題及び対応】

県内飲食店等に、「食べきり3015運動」協力店及び「食べきりサイズメニュー」提供店の登録を働きかけ、登録の拡大を図るとともに、県民への周知に努める。

	H29実績	H30実績	R1計画
⑤「とやま環境チャレンジ10事業」において食品ロス削減に取り組んだ児童の数	—	64校 3,503人	69校 3,022人

【取組実績】

- ・ 10歳の児童が家族とともに10項目の地球温暖化対策に取り組む「とやま環境チャレンジ10事業」において、平成30年度より食品ロスの削減を取組項目に追加するなど、内容を拡充した「富山環境未来チャレンジ事業」を実施した。
- ・ 家庭科「消費生活・環境」で活用できる副読本を作成・配布した。
- ・ 家族やグループ単位で食品ロス削減にチャレンジするキャンペーン「ロスゼロウィーク県民チャレンジ」を、8月1～7日に実施した。
 〈参加人数〉18,855人（51企業・団体が参加・協力）
 〈削減した食品ロス〉推計で約6.8トン（ご飯茶碗 約45,000杯分）
- ・ 手付かず食品の削減に有効なサルベージ・パーティについて、団体等がその開催方法を学ぶセミナーへの講師派遣や、マニュアル作成を実施した。
 〈講師派遣の回数〉10回（富山短期大学、婦人会、食生活改善推進連絡協議会など）



○副読本



○セミナーの様子



○マニュアル

【課題及び対応】

- ・ 楽しみながら食品ロス削減の取組みを実践する機会を提供するため、小学生とその家族が手付かず食品を活用して調理した料理写真を募集し、小学生向け新聞などでPRする。